

学生支援センター *Research Report*  
「キャリア意識調査」

2012年4月9日

### 第3回 「経済・生活支援の利用とキャリア支援への評価」

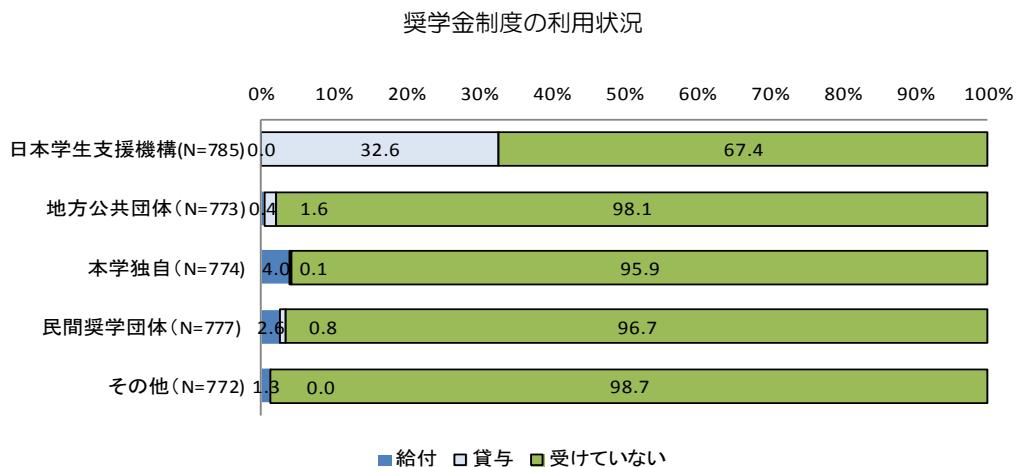
今回は、本学の学生の経済・生活支援の利用状況を概観したうえで、その利用状況と、本学で行っている就職・進学のためのキャリア支援に対する評価との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながらみていきます。

#### 1. 経済・生活支援の利用状況

まずは、本学の学生の経済・生活支援の利用状況について、「奨学金制度」「授業料免除制度」「学生寮」の利用状況に着目して概観していきます。

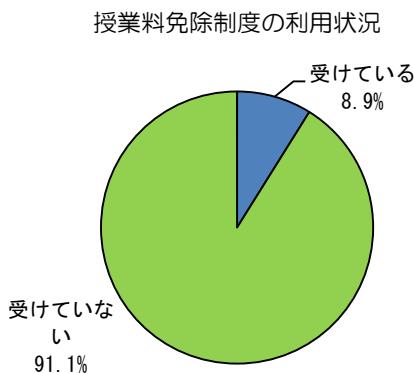
##### (1) 奨学金制度の利用状況

本学では、日本学生支援機構、地方公共団体や民間団体等からの奨学金のほかにも、大学独自の奨学金を多数用意しています。これらの奨学金制度の利用状況を示したところ、本調査の回答者において、日本学生支援機構以外の奨学金制度を利用している者は、いずれも5%未満に留まっていますがわかります。



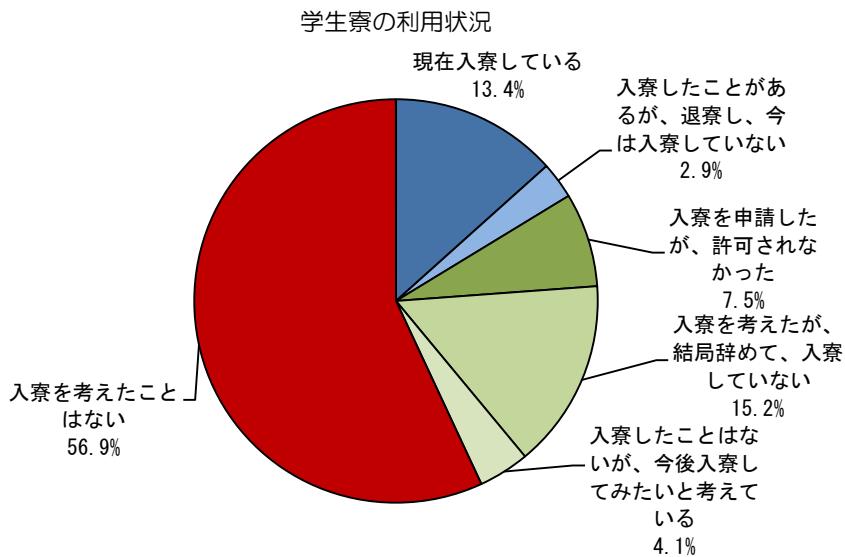
##### (2) 授業料免除制度の利用状況

続いて、授業料免除制度の利用状況について示したところ、本調査の回答者において、授業料免除制度を利用している者は全体のおよそ1割であることがわかります。



### (3) 学生寮の利用状況

さいごに、本学の3つの学生寮への入寮および申請、検討状況について示したところ、本調査の回答者において、入寮を考えたことはない者はおよそ6割であり、4割以上の者は、現在入寮していたり、入寮の申請や検討をしていた(している)ことがわかります。

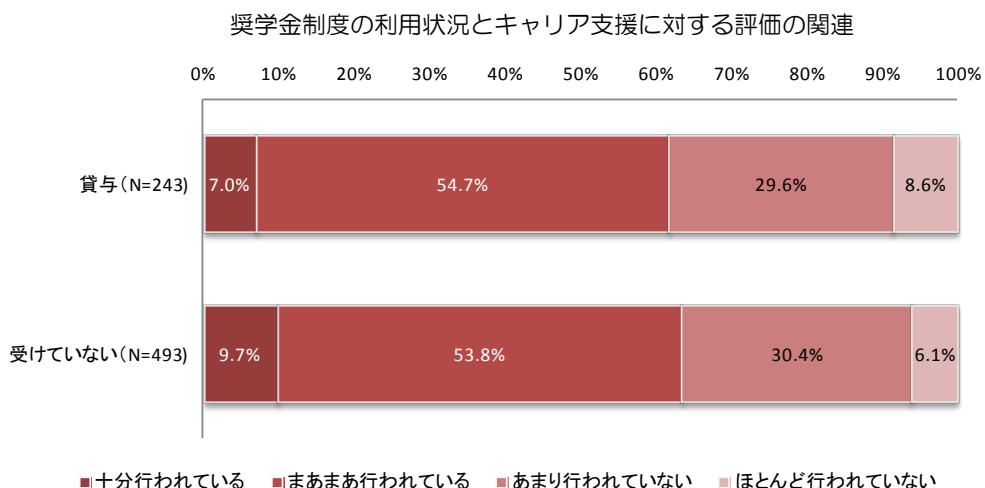


## 2. 経済・生活支援の利用状況とキャリア支援への評価

続いて、3割以上が利用している日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と本学のキャリア支援への評価（本学のキャリア支援が十分に行われていると感じているのか）について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながらみていきます。

### (1) 奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価

本学のキャリア支援全体に対する評価と日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況の関連を示した結果、本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」+「まあまあ行われている」）は、奨学金制度利用者、非利用者ともに6割以上でした（有意差なし）。

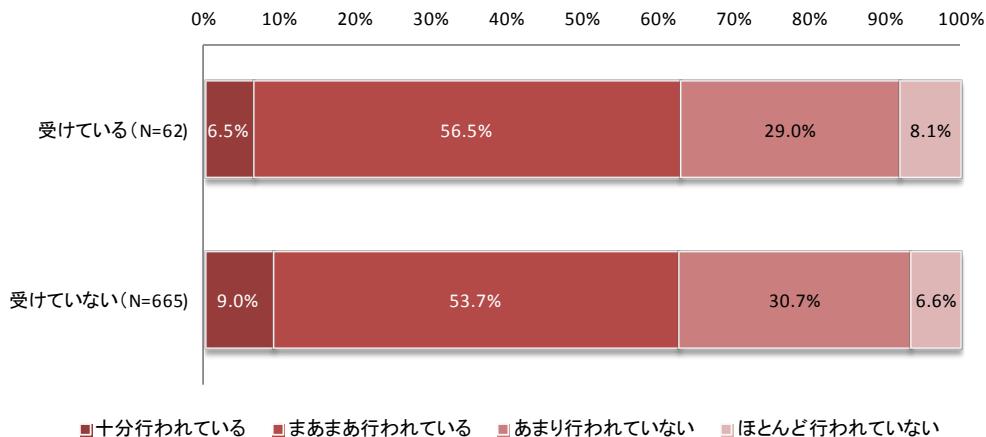


ただし、本学の教員・指導教員等への相談をした者、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者、就職情報資料室の利用をした者などへの有益性は、奨学金制度の利用状況による違いが示されており、いずれの場合でも、奨学金制度利用者が非利用者よりも有益であると感じていないことも示されています（報告書p32～33参照）。

## (2) 授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

続いて、本学のキャリア支援全体に対する評価と授業料免除制度の利用状況の関連を示した結果、本学のキャリア支援の評価率は、授業料免除制度利用者、非利用者ともに6割以上であり、有意差も示されませんでした。

授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

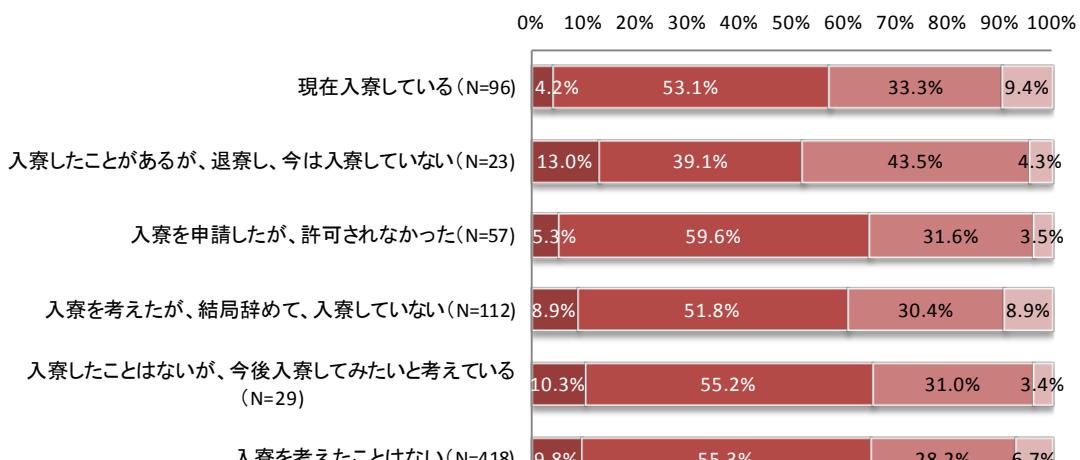


ただし、就職情報資料室の利用をした者、本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者、本学の教員・指導教員等への相談をした者、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者などへの有益性は、授業料免除制度の利用状況による違いが示されており、また、必ずしも利用者が非利用者よりも有益であると感じていないわけではないようです(報告書p37参照)。

## (3) 学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

さいごに、本学のキャリア支援全体に対する評価と学生寮の利用状況の関連を示した結果、本学のキャリア支援の評価率は、学生寮の利用状況にかかわらず、いずれも5~6割という結果になりました(有意差なし)。

学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連



ただし、本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者、本学の教員・指導教員等への相談をした者、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイ

イザーへの相談をした者、就職情報資料室の利用をした者などへの有益性は、現在入寮しているか、入寮を考えたことはないかによる違いが示されており、いずれの場合でも、現在入寮している者が入寮を考えたことがない者よりも有益であると感じているようです（報告書 p43～44 参照）。

今回取り上げたキャリア支援の利用状況は、学生の学年や卒業後の進路希望などの影響を強く受けることは言うまでもなく、今回ご報告しました知見は慎重に解釈する必要があります。その点に留意し、分析をさらに深めながら、経済・生活支援やキャリア支援を有効に、かつ、統合的に行うための具体的な方策を検討し、実践にあたりたいと思います。

次回は、  
「キャリアデザインプログラム受  
講状況とキャリア意識」  
について、ご報告します。



「学生支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介おります報告書は、学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を入手できるほか、TeaPot からもPDF形式でダウンロードいただけます。

（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/51315>）